

こころる便り

第296号
令和6年11月

〒679-1434
兵庫県たつの市新宮町大屋六六八十二
株式会社 新宮運送グループ
代表／木南 一志
kminami@shingu.co.jp
電話 079-11751212



新宮運送ホームページ

国の行く末

還暦もずいぶんすぎて歳を重ねるごとに、将来この国はどうなっていくのだろうと案じる
ことが増えている。そんなことより自分のこ
とを心配しろという声は一旦置いておいて、学
びを得てきた論語の中にも同じような言葉が
あつて、人間は二千五百年たつても変わらない
ということが分かる。だから、そのままいい
というわけではない。

我が国の歴史を繙いていくと、何度も同じこ
とを繰り返しながらも大切なものと変わるべ
きものをしっかりと受け継いできたことが分
かる。実感することができなのが「米」である。
書物もない神話の中に出てくる物語のような
ことが、これだけ便利になった現代でも稲作を
行ない、豊作を願い、お祭りをして、感謝してい
ただいている。世界中で日本だけが続けてき
たことは、百二十六代の天皇陛下を例に出すま
でもなく、数えきれないくらいたくさんある。
「修身・齐家・治国・平天下」と教わった。
自分自身をしつかりと磨き上げること、安定
した家をつくることができ、そういう人が増え
ていくことで国が収まる。結果として、平和な
世の中となるのだ。

自分が全ての始まりと考えたなら、政治家の
ことを批判するだけでは意味がない。何を実
行しているか、それも自分のためではなく「公」
という世の中のために、人のためにである。

便利な世の中になったからこそ、原点に立
ち戻って実行する時が来ているのだと私は考
えている。トラックドライバーに「公の役割」
がある。安全運転である。

当たり前だと笑われるかもしれないが、利
益を求める前にやらなくてはならないことな
のだ。営業マンも同じだ。電車の中でも席を
譲るという仕事をするのは、若者ではない。サ
ラリーマンこそ、先輩の老人たちに席を譲る。
こんなことが当たり前前にできたなら、きつと
立派な国になっていくと思える。

子供たちも、そんな大人を見て、憧れる存在に
なるのだと容易に想像がつく。夢を描ける子供
たちはそうやって育っていくのではないか。

大人たち、しつかり役立つ人になろう。
私も顔晴ります。

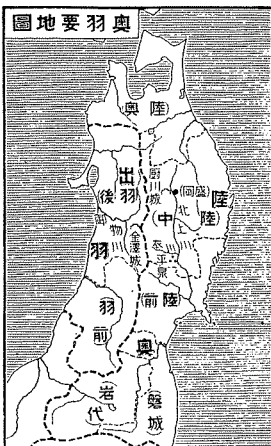
被災地にこころを寄せながら

木南 一志 拝

尋常小學校國史 上巻

第十六 源義家 ②

NPO法人 愛ランド様の協力で障害を持つ皆さんが宛名貼り、
封入作業をしてお届けさせていただいております。



奥羽地方再
びみだる

まことに武士のなさけといふべし。それより遂に
貞任等を厨川の城に囲みしが、賊は城中に高き櫓を
かまへて、其の上より官軍をねらひうちしかば、官軍甚
だ之になやめり。頼義すなはち兵士に命じ、人家をこぼ
ちて堀をうづめ、又草を蒔りて山の如く積みあげしめ、
みづからは馬より下りて、はるかに京都の皇居を拜し、
又石清水八幡宮に祈をこめ、火を取りて之を投げこみ
しに、大風にはかに吹きおこりて、火はたちまち城中に
もえりつれり。賊軍は思の外のことなれば、上を下へと
あわてさわげるを、頼義すかさず攻めよせて、遂に貞任
等を斬り、宗任等追捕へて、亂全く平ぎたり。
世に之を前九年の役といふ。後頼義鎌倉に
八幡宮を建てて神恩を謝したり。

義家京都にかへれる後、關白頼通の邸に至りて、戦の物
語をしけるに、大江匡房これをたち聞きて、義家は、大將
になるべき才を持てども、惜しいかな、いまだ兵法を知
らず。といへり。義家の従者怒りて、かくと義家に告げし
に、義家は少しも怒らず、もつとものことなり。とて、やが
て匡房を師として兵法を學びたり。

さて奥羽の地方にては、さきに清原武則、頼義に従ひて
安倍氏の亂を平げ、遂に安倍氏に代りて勢を得たりし
が、白河天皇の御代に至りて、其の子孫の間に争起りて、
奥羽地方再びみだれたり。



令和6年
霜降

鍵山ノートから

その③⑤

人間は死んだら
何も残らないが、

他者のために
公共のために尽くしにこ
とや贈った物だけは残る

いやしくもわが身上におこる
一切の事柄は、そのすべて
が私にとっては、絶対
必然であると共に、また
絶対必要なので
あります

決断は、
私利を去るにあり
私利を去らない人に
人間としての魅力は
ない。器も小さい。

鍵山秀三郎

総選挙は何のために行な
われたのかと考えてしまう。
真を問う？裏金が正しい
と思う人など居る訳がない。
多くの費用を使って負け
るために解散したような
ものでないか。
自民党総裁でもある総理
大臣が為すべき決断で
あったのか。国会で追及さ
れたら、不利になるからと
急いだとしても、その追及
は選挙で終わりとできる
というのが政治家の理屈
なのかもしれない。
仕事においても、一生懸命
がんばっているから給料を
上げてくれ！と言われたこ
とを思い出す。赤字をた
れ流すような仕事をいく
らがんばっても給料を上げ
ることはできない。
どうすればお客様が喜こ
んで、赤字も解消できる
のかを考えて、実行して
失敗を重ねながら、も少
しずつ赤字へと向かう
ような仕事になれば、

給料を上げる原資も生
まれてくる。
社長が給料を出すのでは
なく、お客様が出してくだ
さるのだ。しかし、そこには
プロとしての知恵を働か
せて、赤字になる工夫が
必要となる。
実力のよい人ほど、がんばる
だけで終る。失敗したのは
何故なのかと考えて、工夫
を重ねていくことで、少し
づつ熟練されていくのだ。
当選七回、八回と重ねてき
た中に実績というものが
ないから、同じことを繰り
返すのだ。失人の失敗を
学んでいくだけでも多く
の工夫や知恵があるはず。
投票率80%以下ならば
無効とすれば、政治家
も少しは真剣になるのか。
国家経営は、国民に誇り
を持たせて、豊かさは生活
と安心、安全のためにあ
るといふ原素こそ問い
続けたい課題なのだ。

ありがとうございます

鍵山相談役の快復をお祈りくださいますようお願いいたします。



経営の神様と言われた
松下幸三郎は、無税国

家の実現を夢見ていたと
本で読んだ。円安という形
で日本が安物のように思
えるが、外貨積立高が世界
で一番なのだから、借金分も
差引いて精算してみると、
赤字国債も少しは消すこ
とができる筈だが、そのよう
な経営方針が無いために、
昔からのやり方だけの前例
主義が昭和20年代から続
いている。能登では未だ地
震当時のまま、そのうえ水
害となって予算だけはある
のだが、復興の全体図が描
けないまま、対処療法のお
うな部分工事は、かりで、大
きな声を出さないと動いて
くれないと聞いた。汗して
働いている現場が笑顔に
なる工夫こそ大事で、民間
企業は倒産だ。私利を
求める人に任せられる仕
事ではない。減税に舵を。

冷弘に掃除磨播

※298回

11月10日(日)

- ・ AM7:00~9:00
※冬時間となります。
- ・ 損保都太子町鶴
斑鳩寺にて
- ・ 参加費 500円
- ・ 雨天決行 — !!

ありがとうございます